

令和2年度第1回庄原市「学びの变革」推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会

令和2年7月1日（水） 庄原市田園文化センター

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話】「研究主任の役割」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



- 研究主任として、研究推進計画の立案・実施・まとめ、研究推進に係る連絡調整・体制づくりを行うこと。
- 校内授業研修会では、実際の児童生徒の姿をもとに、指導が適切であったか、授業仮説が実態に合っていたかなど、十分に協議する必要がある。
- 庄原市一斉学力調査結果の全国平均や目標値との比較、設問ごとの正答率や解答類型による分析から、令和2年度の取組の重点を再確認し、組織的な取組を行う必要がある。

【参加者の感想等】

- ◆ 研究主題の設定について大変参考になった。主題の設定の仕方を参考にして、今年度の研究目標を設定し、職員に分かりやすく示すことができた。
- ◆ PDCAサイクルを意識して研究を行っていききたい。研究協議では、今後に向けての課題を明確にして取り組んでいきたい。

【講話】「新学習指導要領に基づく学習評価について」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 小池 紘太郎



- 学習指導要領の総則において指導と評価の一体化の必要性が明確化された。指導に生かされ、児童生徒の力の育成につながる評価を行う必要がある。
- 観点別学習状況評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価を行う。
- 単元の指導と評価の計画を作成する際には、どの時間にどの観点をどのような方法で評価するのかを明記する。その際、指導に生かす評価と、記録に残す評価を計画的に行う必要がある。

【参加者の感想等】

- ◆ 評価は実際にやってみないと分からないことが多く、具体的な演習において評価ができたことで理解が深まった。
- ◆ 指導と評価の一体化として、指導に生かす評価と記録に残す評価の関係、在り方についてイメージすることができた。
- ◆ 学校全体で評価の取組をしていきたい。本日の資料を参考に、研究部会をもち、学期末の校内研修等で振り返り、どのように発展させていくかを全教職員で考えていきたい。

